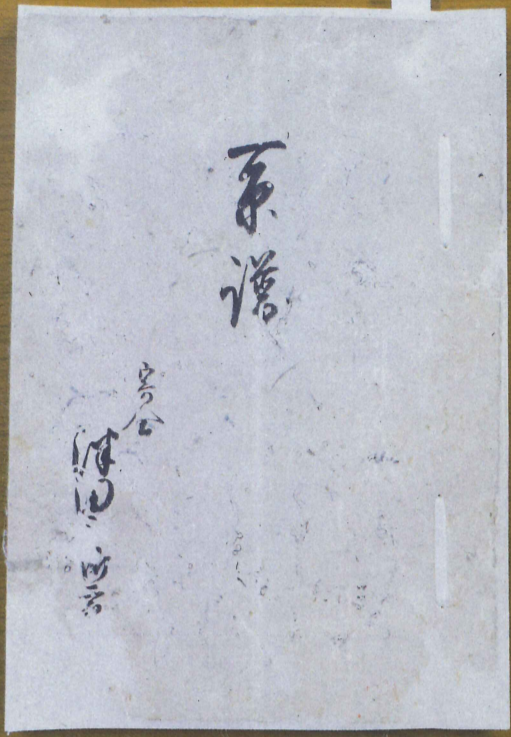


# 津田出を輩出した津田家とは

—「紀州家中系譜並に親類書書上げ」から考える—



## 1. 「紀州家中系譜並に親類書書上げ」とは

紀州藩士が家督相続や新たに人を召し抱える際に、「系譜」と「親類書」を提出したものがまとめられているものです。その数はおよそ15,700点にも及び、歴代当主の功績や役職なども記されています。

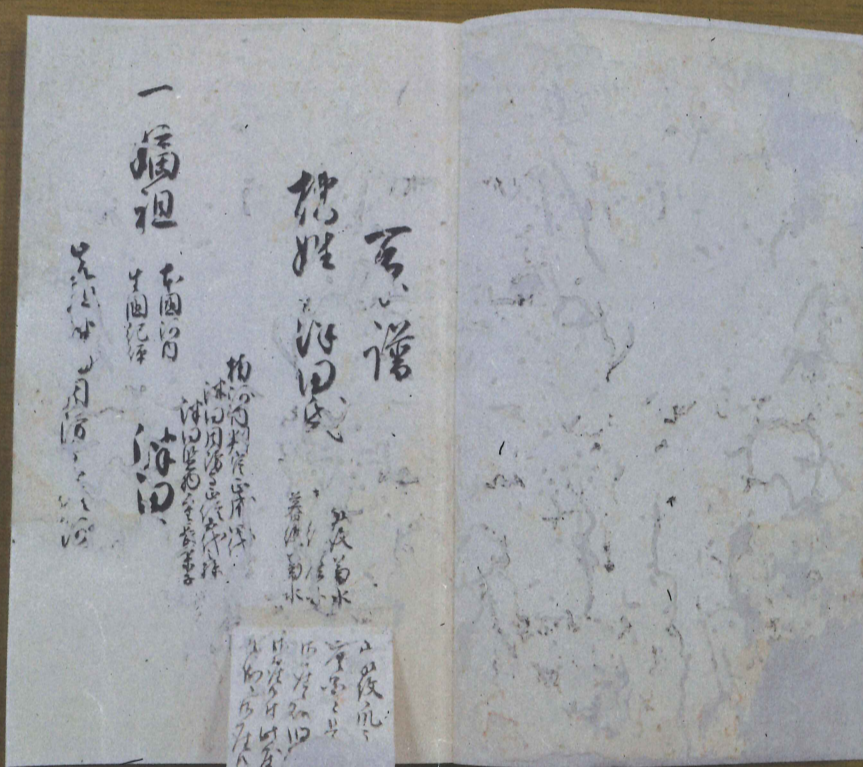
## 2. 津田出の功績

津田出は主に和歌山藩の藩政改革を行った人物です。明治2年に藩主茂承からの懇請を受け、財政難に陥った藩を立て直すため、藩士の家禄削減を行ったり、明治6年の政府による「徴兵制」に先駆けて、徴兵制を実施し、プロイセンのカルル・ケッペンを雇入れ、軍の増強をはかりました。その後、元老院議員などを歴任し、1923年9月には、貴族院議員に勅選されました。



津田出  
(1832-1905)

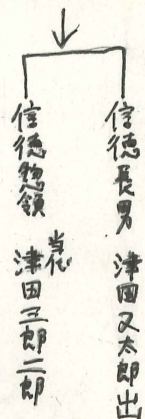
出典 『和歌山県史—近現代』



## 3. 津田家とは

津田家は始めから代々紀州藩に仕えていましたが、あまり高い身分ではありませんでした。初代は「御左間坊主」という客を左間に案内する仕事で、「表御右筆日記方本儀」という日記を書く仕事を行っていました。その後藩主に気に入られたのか、藩主の側室の御用人や「御徒頭格」、「御納戸頭」など数々の役職に就きました。このように津田家は代々同じ役職に就くのではなく、色々な役職に就く家だったということが考えられます。

## 4. 左の矢印の部分の解説



信徳(父)の長男は津田又太郎出で、当代の惣領は津田三郎二郎だと記されています。弟が当代の惣領となっていますが、これは出が病がちなため家督を弟に譲ったからです。この弟は後の津田正臣、初代和歌山県知事です。

### 参考文献

- ・堀内 信 『南紀徳川史(第八巻)』 名著出版、昭和44年4月22日発行
- ・和歌山県史編纂委員会 『和歌山県史 人物』 和歌山県、平成元年3月31日発行
- ・和歌山県史編纂委員会 『和歌山県史 近現代1』 和歌山県、平成元年4月30日発行
- ・和歌山県立文書館 『古文書・公文書等の収集・保存・整理・活用—和歌山県立文書館の業務—』 和歌山県立文書館、令和5年10月発行

出典 和歌山県立文書館所蔵

「紀州家中系譜並に親類書書上げ」整理番号8976番(津田三郎二郎)